銀河戦国群雄伝13
ライ
銀河戦国群雄伝ライ
13
真鍋譲治
真鍋譲治
DE-5-13
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

9784073044505

1910979009500

ISBN4-07-304450-8

C0979 P950E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価950円(本体922円)

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

エンジェルアーム①～⑦
衣谷 遊

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

電撃摩陀羅海賊本①
田島昭宇原作
with MADARA PROJECT

MADARA赤LASA①～③
田島昭宇

MADARA壱①～④
田島昭宇

MADARA転生編
田島昭宇with MADARA PROJECT

MADARA外伝
死海のギルガメシュ
花津美子with MADARA PROJECT

幼稚園戦記まだら①～④
義見依久with MADARA PROJECT

聖痕のジョカ①～⑤
大塚英志原作 相川 有作画

銀河戦国群雄伝ライ①～⑬
真鍋譲治

緋翔伝幾千の月のかけら①～⑤
夢来鳥ねむ

魔狼王烈風伝①～⑤
沢田 翔

メビウスクライン⓪
麻宮騎亜

聖剣士伝説
サムライスピリッツ
真行寺たつや

女神天国新女神誕生編
宮須弥

ネコた～ぽ16V①
そうま竜也

闘神伝2
大友紀弥

摩陀羅RPG
MADARA PROJECT

ダーティペアFLASH
牧原ひさと
高千穂 遙オリジナルクリエイター

サムライスピリッツ
覇王丸地獄行
しろー大野

真サムライスピリッツ
覇王丸地獄変
しろー大野

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

ガンドライバー①
ビトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①
うたたねひろゆき

最終機攻兵メタルスレイダー
グローリーエイミアの面影①
☆よしみる

エメラルドドラゴン
4コマギャグBombl
夢来鳥ねむ・相川 有他

星刻の騎士
スターズ・オブ・サミュール
羽衣 翔 ORG原案

スタービンキーQ①②
只野和子作画 眠田直原作

ローティスなあじゃ
おおのやすゆき

放浪見聞録①
島田英次郎

極道くん漫遊記①
桐嶋たける
中村うさぎ原案

レジェンド・オブ・クリスタニア①②
はじまりの冒険者たち
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案

ビースト&ブレイド
テスタロイ・サーガ
吉富昭仁
おおすみまこと脚本 ORG原案

エメラルドドラゴン
もう一人のアトルシャン
近石雅史作画
中里融司脚本 飯渾監修

テレビアニメ版
神秘の世界エルハザード①②

女神天国SP
うらべ・すう

JAJA姫武遊伝①
中村うさぎ原作 衣谷 遊作画

RAI

BY JOJI MANABE

13

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
SAEMI MIYA
ANRI KOMATSU

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
SHINICHI YAMAGUCHI
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果し、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のターデター時には、南京楼の大守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、激戦を展開、ついに金州海にて、恩師狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、まもなく全五丈を平らげる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を依頼され、その身柄を無事雷の元に届けた。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉王都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど身軽さを生かした活躍が光る。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。蕾段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮、劣勢下の南京楼軍を勝利に導く。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主褝の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主褝を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした事もある。弾正の死後、脹羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雷の命を受けた雲海に保護され、雷の元に落ち着く。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが、今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。幼い割にはしっかりしていて、荒くれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じていたが、今では雷を少し見直したようである。

【孟闇】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。壁戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その精業に重きをなす。

【三楽斎】さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟闇らにはよく思われていないが。

【鐘士元】しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真の様な新参者とは反りが合わず、常に対立するが、初戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入り、金州海の決戦に於いては顕著な活躍をする。

彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する、能吏派軍人。

【姚文】ようぶん

南京楼軍の武将。鐘士元等と共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には逆らわず、

よく戦い、骸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。その後も、金州海や各地の戦いに於いて戦功を上げ、雷の五丈平定を助ける。

【項忠】こうちゅう

南京楼軍の勇将。南天との国境近くに根拠を持ち、部下二千を従える大海賊。やがて雷の度量の大きさに感服して一族郎党共々帰順。齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。

【項武】こうぶ

項忠の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深慮遠謀が欠けるところもあったが、敵味方共に認める、千軍万馬の強者である。

【林則嘉】りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さを持って数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。特に金州海の決戦に於いて逸る雷を諫めたのは特筆される。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の四つ下の弟で、大覚屋の跡取り。兄師真のような縦横無尽な才略には欠けるものの、その思慮深く、篤実な性格の人となりで、多くの人に一目置かれた。雷の財政面での助言者である。

【如晦】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。仕官をせず、しばらく田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、右大臣西約により推薦され、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ幕下に入る。玄偉の殺害を雷に強く勧めた。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天の統一に専念、事実上、それを成し遂げる。しかし、その後の北伐中に、

練の陰謀により叔父丁儀を中心とした国内の造反が勃発、次第にその権力を失い失脚する。大将軍として軍を掌握するがその行動は著しく制限され、座王都に隠棲させられる。しかしその鋭眼の奥には天下を狙う光があった。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり、犬馬の労を惜しまない。弾正の南征においても的確に正宗を補佐し、雷の猛攻より正宗を守り抜く。弾正の余命の短い事を予見し、又、羅候の動きに警戒するよう正宗に進言するが…

【虎丸】とらまる

正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候との修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。

【羅候】らこう

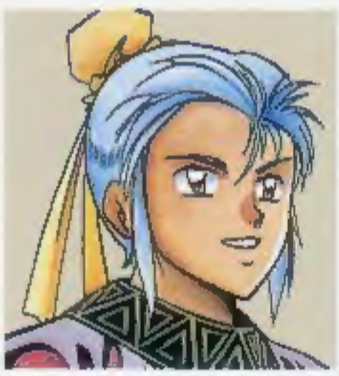
練国国主。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、南蛮王国王女、邑姫を嫁取り、その地盤を強固な物にする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。南蛮王の死去後、その王位を継ぎ、練・南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。雷の偽帝討伐戦に於いては中立を宣言、だが、その野心に満ちた瞳は銀河中央を睨んでいる。

【姜子昌】きょうしょう

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。飛竜とは浅からぬ関係か？

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕とも言われるのが、参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。また、戦功だけではなく、南蛮や正宗の元に使者として遣わされ、首尾良く務めを果たすところなどは、彼の非凡な才能を示している。



【夏候才】かこうさい

羅候配下の有力な武将。南蛮の重臣、夏候猷の息子である。羅候が南蛮の王位に就いた時、兄の夏候牙と共に反対し、クーデターを試みるが失敗、羅候の前に引き出されるが、その

人物の器量の大きさに感じ入り、その後羅候の陣営に加わる。夏候一族は昔からその勇猛さで知られている。

邑峻 ゆうしゅん

南蛮王琉璞罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理の七色餃子のてんこ盛りで宮殿内を餃子だらけにしてしまった。とにかく羅候が好きで好きでたまらない若奥様である。

神楽 かぐら

練国武将。邑峻の遠縁の血筋で白象を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。他の南蛮人に見られるように相当に気性が激しくプライドも高い。女将を軽く見る姜子昌とは何かと対立するが彼にはほのかな恋心を抱く。今後の展開は？

玄偉 げんい

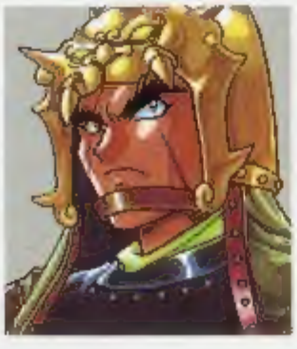
五丈四天王の一人て凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸延の知るとことなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と西光王秦鳳の許に身を寄せる。やがて、彼を抱き込み戦局の最終段階に於いて参戦し、斉王都の戦いでは雷を出し抜き、幻術を操り偽帝骸羅を倒す。その後も一勢力を維持し、新政府の中で雷と対立する。

華玉 かぎょく

玄偉の腹心。李張道士の高弟でその秘られた力て玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため、同じく骸羅の知恵袋の骸延としのぎを削る。骸羅の反乱の混乱時に玄偉と共に消息不明となるが、雷と骸羅の対決を前に表舞台に現れ、策謀を巡らす。斉王都では師真と功を争うが寸での所で破れる。

秦宮括 しんぐうかつ

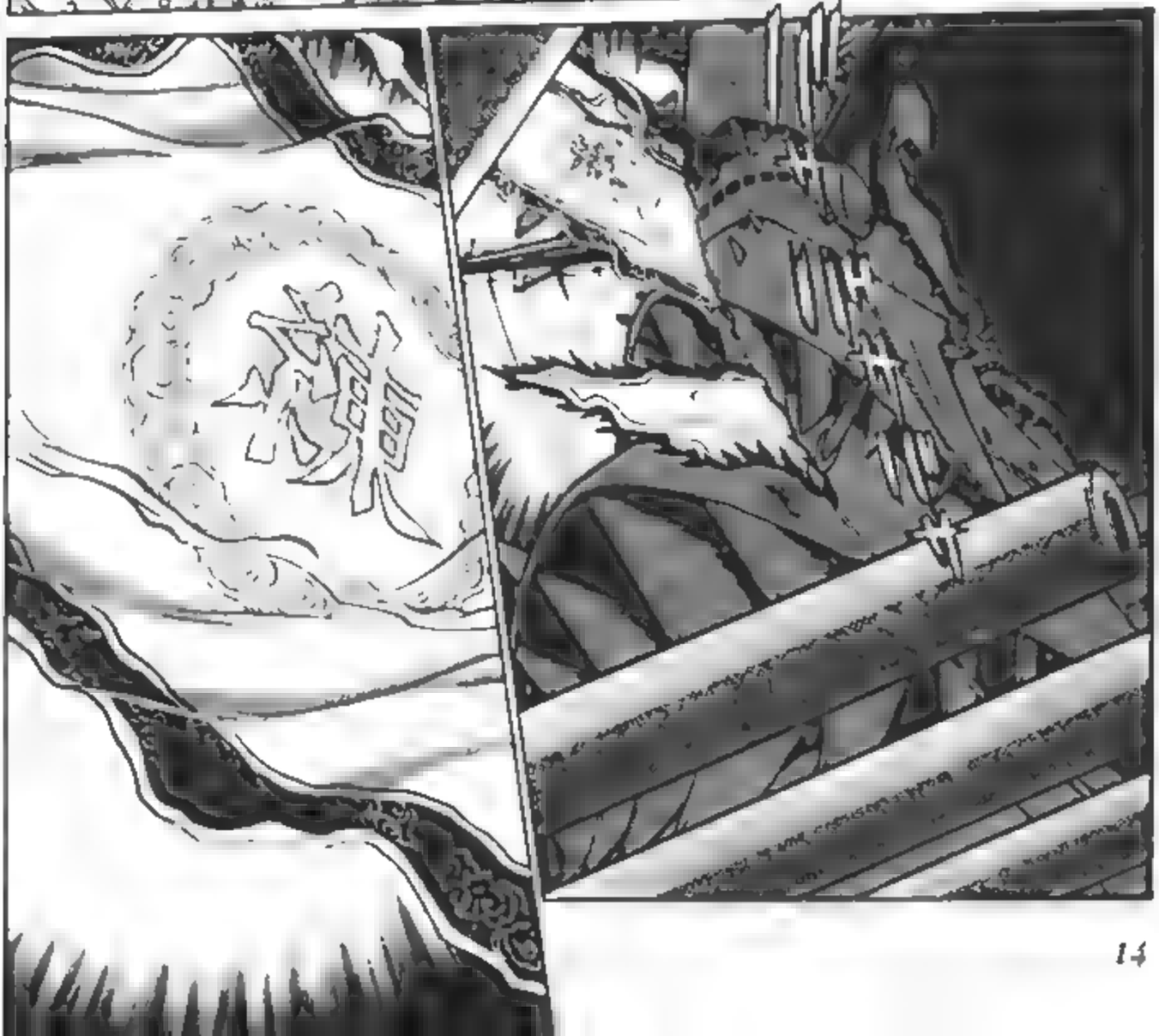
西光王秦鳳の息子。西光一の豪傑である。父親に近づいた玄偉を嫌い、かえってその怒りに触れ謹慎させられる。秦鳳が雷に倒されたのを知り、叔父秦起と供に五丈に復讐戦を挑む。迎え討った項武の軍と激戦を繰り広げ、強者ぶりを発揮する。



雷が
散羅亡き後の
五丈の再建に
東奔西走を
余儀なくされて
いた頃…
五丈を凌ぐ
一大強国となった
練は
その豊かな国力を
駆使し 着々と
天下統一の道を
目指していた
その野望は
銀河史上
最大・最強戦艦の
大量建造を
実現させていた

帝虎級戦艦十二番艦
王虎

軍旗揭揚!!



殿
おめでとう
ございます
おめでとう
ございます!!
おうっ!!
王虎の
進水・就役により
帝虎級戦艦
十二隻体制は
完備し
十二個軍団
すべてに
一隻ずつの
配備が可能と
なりました
十二隻の
帝虎に
率いられた
十二個軍団か…
壮観だな
姜子昌!
は
全銀河広しと
雖えども
これだけの
軍勢は
歴史上
ございません
そして
この軍団で
俺が
天下統一の
道を切り開いて
やる!!

護り続ける
我が神・帝国
勇気か
討ち死にまで
ある日は
よしそれ
!
環境維に
天下を
神・帝国に
栄光あれ
しよいよ久い
戦争が始まる
時が来た!
この巨大戦艦の
衝角が
立ちふさがる
敵艦を
粉砕する日だ

俺に刃向かう
奴は
許さん…!!
殷!
我らに帝虎の
進路を
ご指示くだされ!!
老将軍!
将たる者
己の軍の進路は
心得ている
はずだぞ!
なれば
北て
よろしい
てすな…!!
無論だ!!
殷
五丈は
竜我の叛乱が
成功したとはいえ
混乱状態てす
しかも
愚かなことに
奴は西羌王を
手にかけ
さらなる
内乱の種まで
まいてくれました
!

ただちに
西羌に使者を
送り
共に出兵して
五丈を討ち
領土を分かち
合おうとお伝え
くだされ
西羌と
分かち合う
たと！
なぁに
空手形を
切るなと
我が軍の力を
もってすれば
たやすいこと
竜我を討った
その返す刀で
西羌も討ち
一気に天下を
収めます
参謀
龍緒
うん
おもしろい！
そちの策を
使おう
すぐに西羌に
使者を出せ！
はっ！
竜我よ！
ようやく
戦場で
会えるな〃

殿に申し上げます！
何だ！
王妃様がぜひご自分の部隊を閲兵していただきたいと練兵場でお待ちいたしております！
邑峻が？
くだらん！女・子供の戦争ゴッコに付き合う暇はないと言っておけ！
し…しかしそれでは私めの首が飛んでしまいます!!
お慈悲でございます！何卒何卒…!!
あのバカ…
しょうがない…！そんなことでお主の首が飛んだら俺も目覚めが悪いからな
あ…ありがたきお言葉…!!

羅候――っ!!
ありがとう来てくれたのねー♡
邑峻!
俺はな忙しい身なんだぞ!それを…
いいからいいから早く!
あ姜子昌も来てくれたのねよかったー
は?

さあ
もう何でも
いいから
始めろ！
〈〈〈
では殿
我が南蛮の
精鋭戦車隊を
お見せします
それ！
!!
な…何だ
この
地響きは!?

ドドド

ヒヒヒ

これは…!?
あたしか
南蛮より
呼び寄せた
最強の
白銀戦車隊よ!
なかなかの
迫力もの
でしょ♡
とんな館だって
この突進してくる
重戦車には
かなわないわ
弓も槍も
通さないし
人だって
恐れや
しないのよ
ドドドド

わっ!!
ひっ
わかった
わかった
もういい!
黙らせろ!!
気に入って
くれた?
気に入って
くれた?
ああ
大したものだよ
ほんと…
それとね
引き合わせたい
武将がいるの!
何だ
まだある
のか?
この
戦車隊の
大将よ!
神楽!!
はっ!

女将か!?
もっちろん!
さあ
姜子昌も
もっと前に
出て!
奥方様
何で
ございます
か?
いいから
ほら
もっと!
……

羅候様の
ご尊顔を
拝したてまつり
恐悦至極で
ございます！
それがし
謀国謀県の出
名を神楽と
申します
奥方様とは
母方の筋の
従姉妹に
あたります
以後　お見知り
おきを！
ほう！
女だてらに
なかなかの
豪の者と
見た
この俺に
お主の武芸を
見せてくれ！
承知しました！
……

ガキキ
はあっ!!

おおっ

これは
すごい！
あの大鉄槌を
自由に操って
おる！
う～～～む
あれならば
五丈の狼刃に
優るとも劣らんな
大した女だ
……

いかがでございましょうか？
おうっ 見事だ！ あっぱれな女武者だ！
近う！ 酒を与える
ははっ
壇上へのお招き光栄でございます
いや実に堪能させてもらったさあ俺の酒をもらってくれ
ありがとうございます
どうだ姜子昌これほどの武者ぶりそうはおるまい

ふ…
どうでしょうか
女など
戦では役に
立ちますまい
ひっ!!
姜子昌様!
そのお言葉
聞き捨て
なりませぬ!
南蛮の女は
古より
男と対等に戦って
まいりました
今のお言葉
南蛮の女に
対する
嘲りに
聞こえまする!!
それがしは
事実を
言ったまでの
こと!

ますます
もって
聞き捨て
ならん！
女が戦って何が
気に入らぬと
おっしゃるのか!!
ちょ…
ちょっと
神楽！
止めないで
ください
邑峻様!!
黙れ！
すべては私の
経験に裏打ち
された
事実だ!!
あたしは
こんな風に
頭から否定されるのが
いちばん嫌い
なんです!!
そこまで
言うなら
言わせて
もらおう！
女は情に
流される！
これが決定的な
弱点だ!!
あの五丈の
狼刃を見よ！
大軍を擁して
おきながら
竜我との情に
勝てなかった！
正宗とて
弟・智王との
情でやがて
身を滅ぼす!!

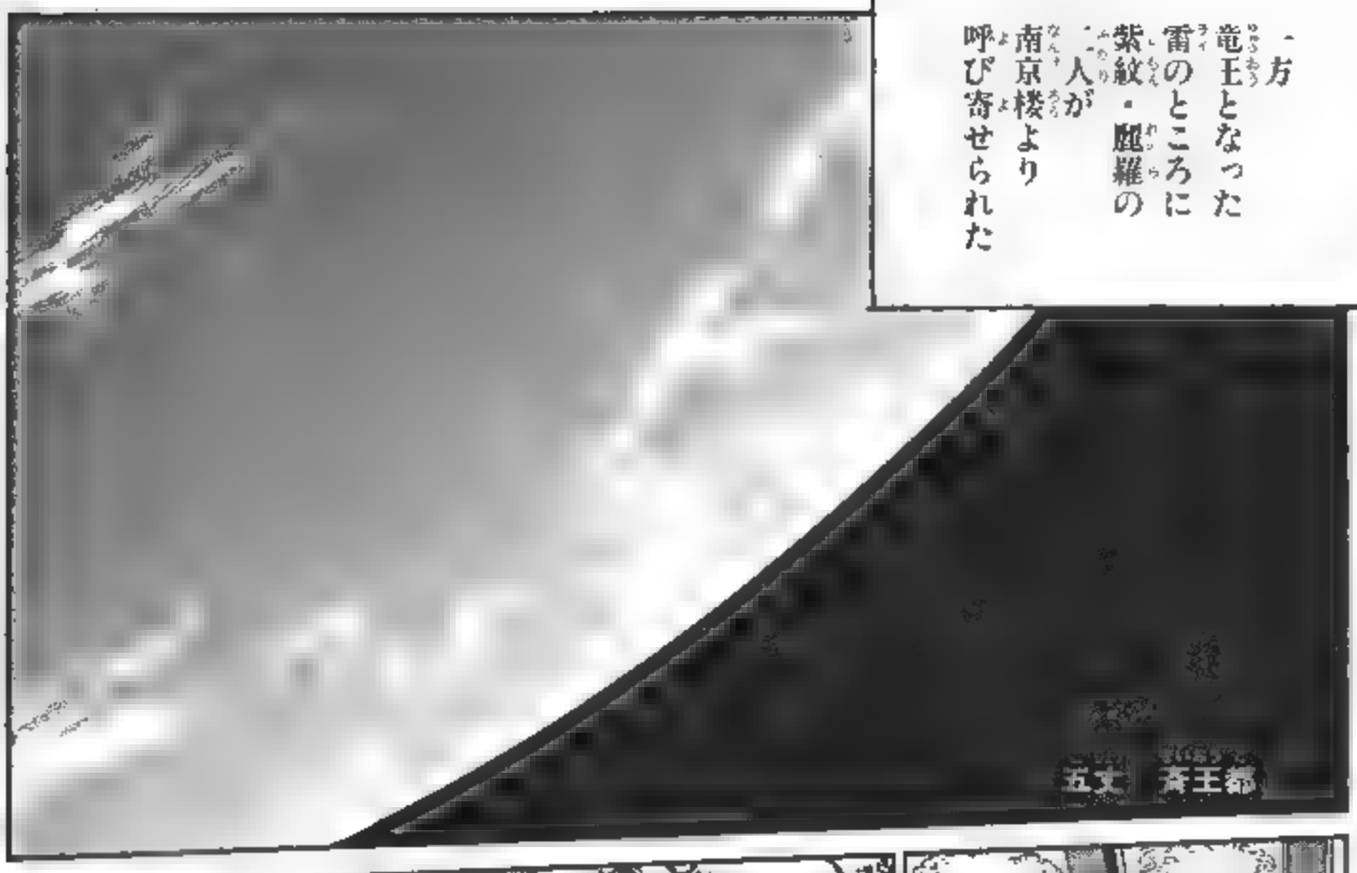
あたしには関係ない!!
もうちょっとやめなさいよ二人共!殿の御前よ!
そうですとも姜子昌様落ち着いてください
姜子昌も言いすぎよ!
あたしも南蛮の女なんですからね!
王妃様への失礼の段…どうかお許しを…
何を熱くなってるんだ姜子昌の奴
さあ…
羅候様!!
あっ!?
ああ…
何だ

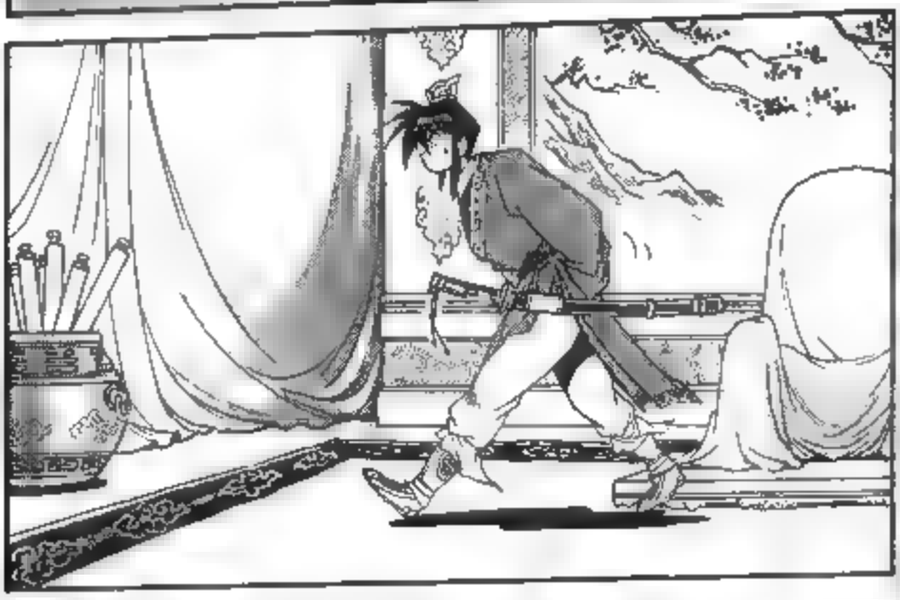
姜子昌様の
疑い
戦場で
はらしたいと
思います！
次なる北伐には
ぜひとも一軍を
お与えくだされ!!
あ…ああ
いや　お主の
武芸はわかったが…
しかしだな…
お願い
いたします!!!
わかりました
殿！
こやつがそこまで
言うのなら
私の軍団で
預かりましょう
よろしい
でしょうか？
!!
いいのか
姜子昌？
はっ
何かの役にでも
立ちましょう
お任せください

神楽とか
申したな…
お主の
大言!
その真偽を
確かめさせて
もらうぞ!!
望む
ところです!!
ちょっと〜〜
神楽〜〜〜!

どーすんのよ
姜子昌に
ケンカ売って〜!!
申し訳
ありません
邑蛟様…
せっかく
あたしが
苦労して
姜子昌と
会える
機会を作って
あげたのに!!
最悪よ
第一印象!
はぁ…
邑蛟様に
せっかく
骨を折って
いただいたのに…
思わず
頭に血が
昇って…
とにかく
ひょうたんから
駒で
うまく姜子昌の
軍団に入れた
んだから
うまく
やんなさ
いよ!
はい…

一方
竜王となった
雷のところに
紫紋・龍羅の
二人が
南京楼より
呼び寄せられた





申し上げます
奥方様
麗羅様
ただ今
お着きに
ございます
そうか!!
こ…こら
ついて来るな
って!!
ワラワラ
いえいえ
陛下のお喜びの
お姿を
拝見いたしたいので…
紫紋!
麗羅!
雷~~~っ!!

と・と・と・
キャーーーー!!
うーーーーっ
アホ
紫紋(しもん)が
先に行(い)かんと
うちが
行(い)きづらい
やんか!
ほれ
ほれ!

雷(ライ)……

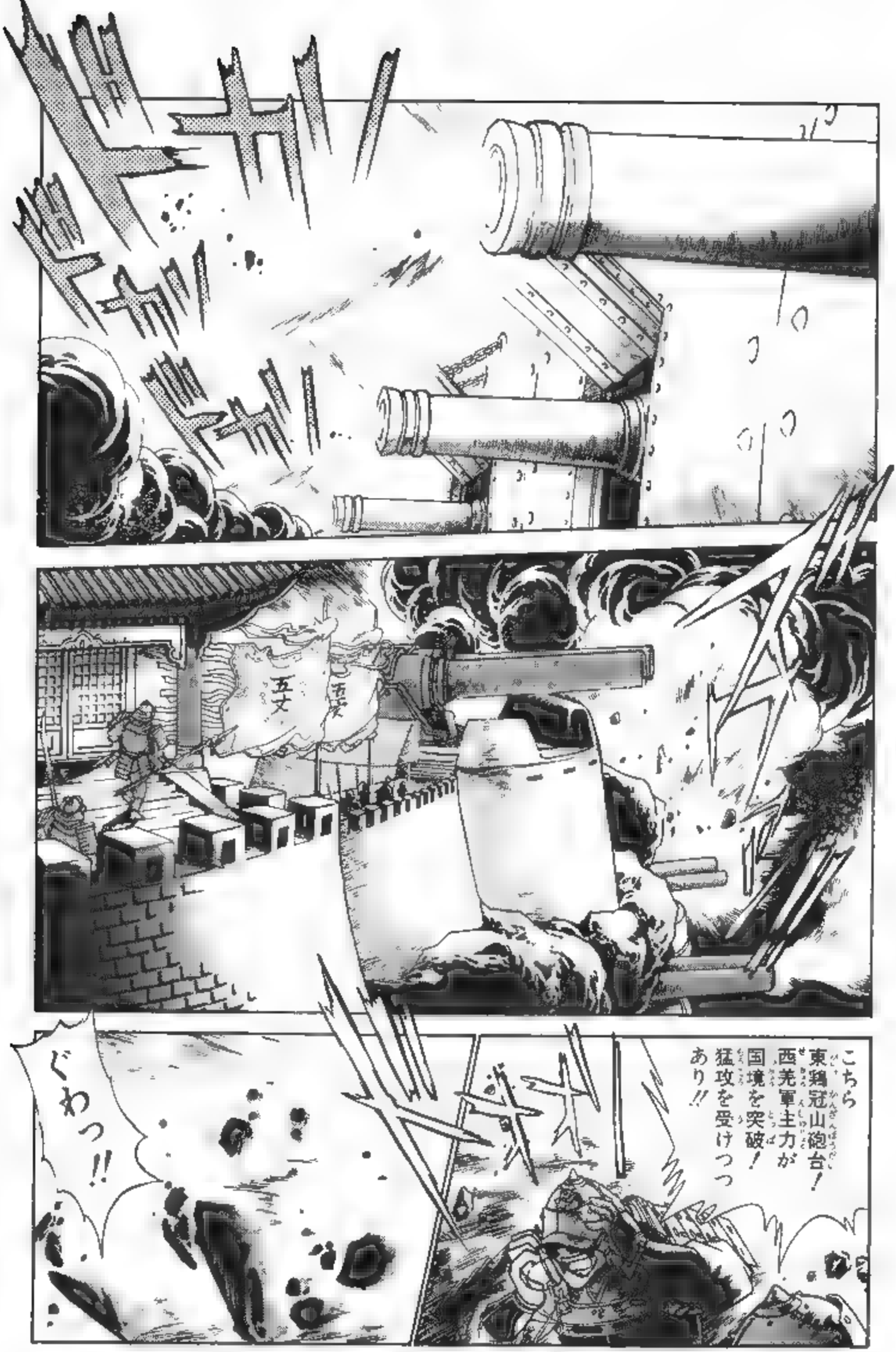
麗雅！
来いよ
!!
雷――っ
会いたかったで
――っ!!
ははは
うちは
雷に会うために
一日六回も
お風呂入って
おハダみがいて
たんや!!
さーて
我らはお邪魔の
ようだな
退散いたし
ましょう
いいなあ
奥さんが
いるってのはなー
!!
な…何じゃ
項武…!
おまえ嫁が
ほしいのか!?
何もそんなに
必死に笑いを
こらえなくても
いいだろ!

ふ――
ちょっと
酔っちゃい
ました…
夜風が
気持ち
いい…
雷…
半年も
放ったらかして
ごめんな…

へ…
へぇー…
それに…
羅(れい)ほどじゃ
ないけど
あたしだって…
一日三回(いちにちさんかい)は
お風呂(ふろ)入って
お肌(はだ)みがいて
たのよ…
紫紋(しもん)…
……

何してんですか軍師様？
ぎくうっ!!
な…何でもない!! 子供は早く寝ろって!!
ねえそんな望遠鏡で何見てるの!?
あたしにも見せて！見せて！
あっこら駄目だ！シッシッ！
ややっまたキスを!!
雷の奴〜〜っ!!
夫婦だから当然でしょ
ゴゴゴゴ

おおっ
そうだ！
たしか林の奴が
雷に火急の
用があると
言ってたな！
うむ
ただちに
竜王陛下に
上奏せねば
ならん！
うん！
そんな
野暮なこと
しちゃ
駄目ですよ
今晩は
あたしが
付き合って
あげるからね♡
まずい！
今晩の酒は
と・て・も
まずいっ!!
アン：
ライ～～～
んなとこ
さわっちゃ・
いや いや
アカンて
～～～…


ドカ
ドカ
五丈
こちら
東鶏冠山砲台！
西羌軍主力が
国境を突破！
猛攻を受けつっ
あり!!
ぐわっ!!

西羌軍が
動き出した
そうだな！
はっ
本日未明
国境防衛線を
突破
三軍に分かれ
進軍して
まいります

※仇を報い、恨みをすすぐこと

何？
練が…
羅候が
動いただと！
あのバカ――!!
陛下
恐らく西羌軍と
通じている
ものと
思われます
警戒が
必要です
申し上げます!!
間者の報告では
練の大都督・
姜子昌が
正宗に書状を
送り
共に五丈を
討ち　銀河を
分かち合おうと
もちかけたとの
ことでございます
正宗にか!?
はい
五丈討伐の
総指揮を
正宗に委ねると
まで申したそうで
ございます

姜子昌の奴
何としてでも
正宗を動か
そうとして
いますな
練は
五丈を分割する
気はない
一気に天下を
収める気だ！
陛下
事態は刻々と
悪化して
おります
残念ながら
今の我々には
三方の敵に
当たるのは
難しゅうございます
そうだな…
一つ一つ
片付けていく
しかないか…
そういえば
丞相…
師真がいない
じゃないか
ん？

はあ
そう言えば…
それに
三楽斎の姿も
ここ二・三日
宮中で
見かけませんが…
おいおい
こんな時に
二日酔いか
何かで寝込んで
いるんじゃ
ないだろうな
……ったく
軍師はいつも
刻限にうるせえ
のにな！
とにかく今は
危急の事態
それがしが大事を
告げて参りましょう
陛下
朝儀に遅れて
申しわけ
ありません
！
師真！

遅いぞ！
どうした
身体の調子でも
悪かったのか？
ご心配をおかけ
しましたこと
お許しください
三路より
攻め込まれている
ことは聞いて
いるか？
攻め込んで来るのは
一路
西羌のみで
ございます
何？
残り二路
練・正宗は
すでに防いで
おります
それがし
陛下より
軍事・外交の
大権を託されて
おりますゆえ
独断で事を
運びました
朝儀に遅れましたのも
その手配完了の
報告を待って
いたのです
その手並を
聞かせてくれ
羅候が西羌と
同調するのは
わかってましたので
楽羅を討った後
すぐに三楽斎を
練に遣わしました

ではあの〝麒麟〟を持参してか
羅候の性格から見て練軍は半月は動きますまい
もちろんそれだけでは不十分…我々も正宗を使います
正宗にとって練の天下統一につながる共同の出兵には首を縦には振りますまい
そこで…
正宗に使者を出したのか？
いえ密かに智に武器・弾薬を送りました
？
智の領民の有力者に謀反をそそのかしております
練にとって一番恐ろしいのは正宗の逆襲…奴の動きに神経をとがらせているに違いない

その矢先に
占領下の智国に
反乱が起きれば
必ず正宗が
それに乗ずるのを
警戒します
練は
軍を動かせず
立往生で
ございましょう
正宗を実際に
動かすより
ずっと簡単に
練を牽制
できます
ほう…
さすがは
丞相
後は
侵入してきた
西羌を討つ
のみでございます
しかし丞相
そうは申されても
我が軍はまだ
編成途上
装備・練度共に
まだ低う
ございます
西羌軍二百万に
とても全力では
ぶつかれません
かろうじて
編成・訓練が
終了しているのは
一個師団のみ

そいつは
俺の軍団だ!!
陛下!
ぜひとも
この俺に
迎え討たせて
くだされ!!
項武
やってくれるか
おまかせを!!
陛下はごゆるりと
吉報を
お待ちくだせえ!
項武将軍
敵大将・秦起は
役人肌の小心者
これは
かまわぬが
秦黥の長男
秦宮括は
武勇抜群の
真の強者
用心なされよ
へっ

どこの馬の骨か
知らねぇが
俺に当たったのが
運の尽きって奴ですよ
それでは
陛下 丞相
ただちに
出陣します！
陛下
敵は二百万の
大軍
しかも西羌兵は
勇壮と聞きます
項武では
大事を
まかせられ
ません
!!
親父!!
ええい
おまえは
黙っておれ！
陛下
まだ項武は
年若く
また血気に
はやりやすう
ございます
ここは
それがしに
おまかせを！

年が若いのも
血の気が多いのも
認めるが
俺だって戦場を
踏んでるんだ!
いつまでも
子供扱いしないて
くれ!!
親父こそ少しは
体をいたわれ
よな!
何しやとーっ!
人をおいはれ
呼ばわりする
気か!
まあまあ
両将軍
項羽
安心しろ
項武なら
まかせられる
頼むぞ
項武
うほっ
さっすが
軍師!!
丞相!
へっへっへ
西発の途中
なんぞ
ひとひねり
よ!
丞相!

項羽殿
項武も
いつまでも
待大将では
困るのだ
やがては
大都督として
全軍をまかせられる
将となってほしい
そうだな
安心しろ
あいつも
ずいぶん成長
してるさ
ははっ
身に余る
ご配慮
感謝いたします
こうして
項武は
五十万の
軍勢を率いて
意気揚々と
出陣した

ゴゴゴゴゴゴ
むむむっ！
しっかり
守ってやるから
なんでよ!!

将軍
ギクッ
な
何ですか
副軍師殿
私が同乗して
いるのは
将軍が西発を
降した後の
戦後処理を一任
されているためです
まあ
事務屋だと
思ってください
…てことは
戦は俺に
まかすって
言うんですかい？
もちろん！
大命を
受けたのは
将軍ですからね
は…
わはは
そうそう
戦は戦！
政治は政治
ですよな!!

叔父上！

五丈軍が
接近中とか！
うーうむ
ここから
五十里ほどの
所で陣を
構えておる
それで
竜我が率いて
おるのですか!?

いや
物見の知らせ
では
大旗に
項武とある
そうしゃ
項武!?
何た
そいつは！
竜我い奴
父を殺めて
おきながら
脆して
出て来ぬとは!!

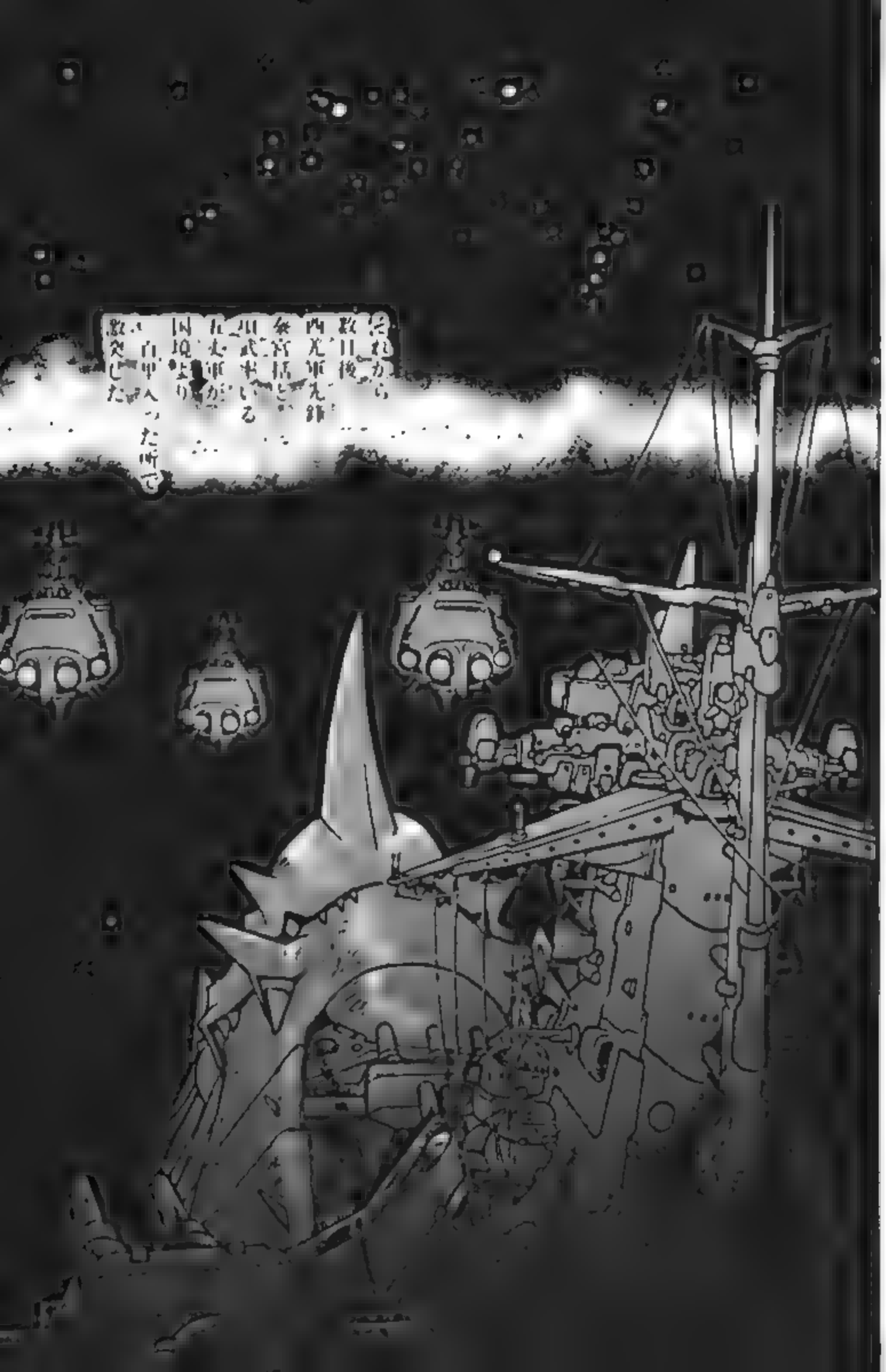
叔父上
それがし
一軍を率いて
その雑兵共を
蹴散らして
まいります！
さすれば
竜我も：
まあ待て
乗宮括！
羅候殿も
兵を起こした
そうしや
ますは羅候殿と
連絡を取りしやな：
練の助けなと
いり申さぬ!!
叔父上は
それがしが
項武とやらに
遅れを取ると
申されるのか!!
い、いや
そ…そうは
申しておらぬわ
わ わかった
好きにせい！
では
出陣いたす！
そやつを
討ち破って
一気に
五丈中央に
乗り込み
ましょうぞ!!

やれやれ
血の気の
多い男じゃわい
ご主君
よろしい
でしょうか
うん
何じゃ
秦宮括の
ことで
ございます
奴はかねがね
主公を
ないがしろに
しております
驃騎殿より
西羌の兵権を
お預りになったのは
主公でございま
すぞ
今
主公は
奴の後見を
なさっておりますが
五丈を討てば
もう主公の
言うことは
聞きますまい
で…では
どうしろと
言うのだ?
お耳を…
うむ…
うむ…
なるほどのう
五丈の手で
あ奴を
始末するか…

西羌軍内部は
分裂している
そうだ
分裂？
斉王都

秦鷹は
せがれの秦宮括を
よく思って
いなかったって
ことさ
何でも
玄偉の口車に
乗りかけた父親を
かなり強く諫めた
そうだ
身柄を
叔父の秦起に
預けられ
蟄居させられて
たんだってよ
なるほど
それで
総大将は
秦起ってわけか

小心者で
役人臭の強い
総大将と
武人気質の
甥では
放っといても
軍が割れる
ま
そこんところを
突くよう
林も考えてる
だろうて
それにしても
早いとこ
軍備を増強
しねえとな
うむ
いつまでも
羅候を押さえ
きれんからなあ
項武よ
功を焦るな
怪たる者
時には勇を
捨てねば
ならん時もある…
まえの
成長を見届ければ
わしには
後顧の憂いも
なくなるという
ものじゃ


それから
数日後
西光軍先鋒
秋宮将とか
川武率いる
五大軍が
国境より
百甲人ったた所で
激突した

将軍
敵先鋒ですね
秦宮括の
大旗が見えます
西発王の
せがれって
奴か！
ええ
豹韜虎騎
身の丈九尺
一丈八尺の大刀を
ひっ下げた
豪勇の持ち主です
ふん！
その評判に
偽りが
ねえことを
祈ってるぜ!!

項武様！
敵旗艦が一隻で
前に進んで
まいります！
ほう
何のつもりだ
オオオ
ゴゴゴゴゴゴ

どうした
五丈の軟弱者共！
さあ
討って出て来い！
それとも
この秦宮括に
恐れをなしたか〃
野郎！
置わせて
おけば〃
艦を進めろ〃
奴の旗艦に
殺けるんだ〃
将軍！

やいっ
西光の田舎侍共
五丈の項武を
知らねぇのか!!
ふん!
我が秦家は
代々王族よ
貴様のような
下郎 誰が
知っていようぞ!!
秦
貴様なんぞに
用はない
竜我を出せ!!
八つ裂きに
してやるわ!!
ぬかせ
てめえの相手は
俺で十分だ!
大口叩くのは
今の内だぞ!!
この俺との
一騎打ちの
勝負
受けるか!
そのつもりで
出て来たのだ
望むところよ!!

行くぜ 桑宮拓!!
はっ
ふん 怖し気づかな かったことだけは 誉めてやる!!

この五丈に
土足で入りこみ
やがって!!
覚悟はできて
いるんだろうな!!
ぬかせ!
首が離れた後に
許しを乞うても
遅いぞ!!

なるほど
西羌に
秦宮括あり
とは
聞いていたが
堂々たる
丈夫ぶりですね
ここは
項武将軍の
好きなように
させておきますか

陣太鼓を!!
いいねいいね
項

どうやら
一騎討ちの
舞台らしく
なったじゃ
ねーか！
ふん！
お主のような
小物には
過ぎたるものよ

感謝するがいい！
ちっ
言わせておけば…!!

いのちっ!!

両軍の兵しも奉
その激しさに
手出しもできず

ただ
固唾を呑んで
見守るだけで
あった

だが
二人の勝負は
一向につかなかった

こやつ
けっこう
やるな…

だが貴様なんぞに
いつまでも関わって
おれんのだ!!

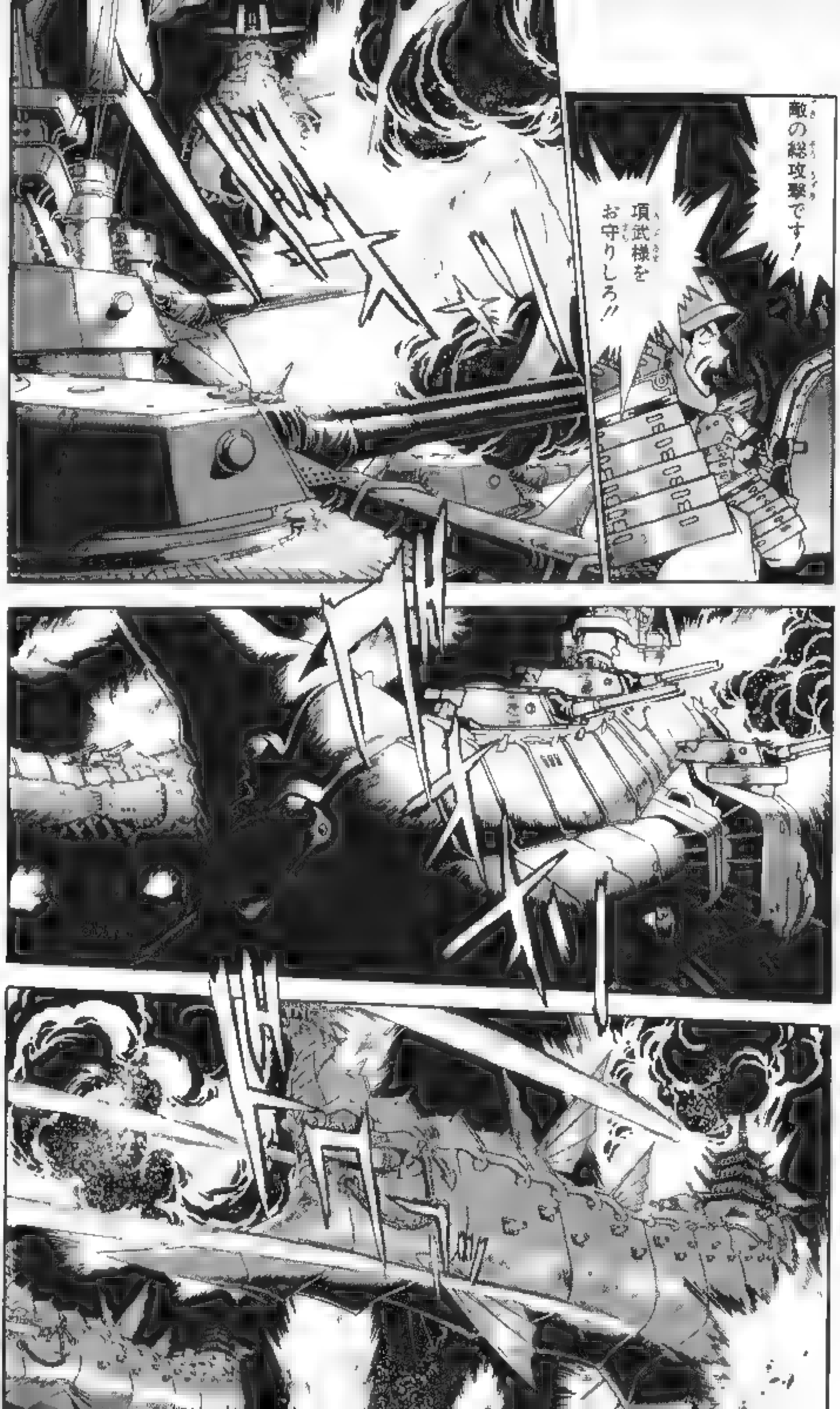
ああっ!!
わはははは
やりやがったな
この環武様をなめんしゃねぇぜ!!

おらおらおらおらっ!!
くっ!

むっ!!
くそっ
誰だ
引き上げの
ドラを
鳴らしてる
奴は!!
やいっ
秦宮括!
この勝負
預けるぞ!!
何いっ
逃げる気か!?
お主の首は
ほれ
ここにあるぞ!!
ぬかせ!
てめえの
首とて
同じことよ!!

本隊の脱出を
援護するよう
後続部隊に
伝えてください

くそうっ
逃がさんぞ!!
全軍に
突撃命令を
出せいっ!!


敵の総攻撃です！
項武様を
お守りしろ!!

こうして
両軍主力における
初めての激突は
小競り合い程度で終わり
両軍共に
引き上げたのだった

やいやいやいっ!!
副軍師!!
どーして
引き上げの合図を
鳴らした!?
戦は俺に
まかすって
言ったろ!!
しかし
将軍が艦橋に
おられなければ
誰かが命令を
出さなければ
ならないでしょう
幸い私は
副団長格として
乗船していますので
その権限で
引き上げを
命じました
理屈はどーでも
いいんだよ!!
なぜ勝負を
つけさせて
くれねえんだ!!!
確かに見事な
戦いぶりでした
今少して
勝負がついたやも
しれません!
あんたが
邪魔しなきゃな!!
ドゴーン!!
将軍
出がけに言われた
丞相のお言葉を
お忘れですか?

将軍！
将軍の首は
敵の侵攻を
食い止めるのにはな
まこや
四天にはめへ
ことこともない
ぜひとも攻めましょう
ここは
しかしクッ
うんこよりも
ぜひ
一
にするわい
後顧の憂いを
取り除くことが
一番大事
確かに
そう言って
たが…
納得いかねえ
命令だ！
あいつはうちの
大将を仇だと
思ってるんですぜ
そいつがどうして
俺たちと同盟を
結ぶんだよ
しかし仇敵の
間柄が転して
信頼できる
友軍となれば
我が軍には
計り知れない
利があります

そりゃあ
無謀だろ
親父を殺した
ことは
忘れてくれって
言うのかい？
俺が奴だったら
死んでも
いやだぜ！
将軍と西光王の
跡取りでは
立場が全然
違いますよ
秦宮括には
私怨を捨て
国のために
為さなければ
ならないことが
あります
彼に私怨という
小さなことに
こだわり
大事を失う愚を
わからせれば
いいんです
何だか
面倒くせえな…
もしかしてこりゃ
副軍師に
まかされてる
政治の方に
行っちゃってるのかい？
まあ
半々って
とこですかね
私が
考えるところ…
あー
待った！

半々って
ことは
俺にも
言う権利が
あるよな！
しゃあ
こうしませんか？
おたがいの考えを
手に書いて
見せ合うってのは
いかがでしょう
ははは
一・二の三って
やつだな

おいっ
字はこれて
よかったか？
はっ
恐らく

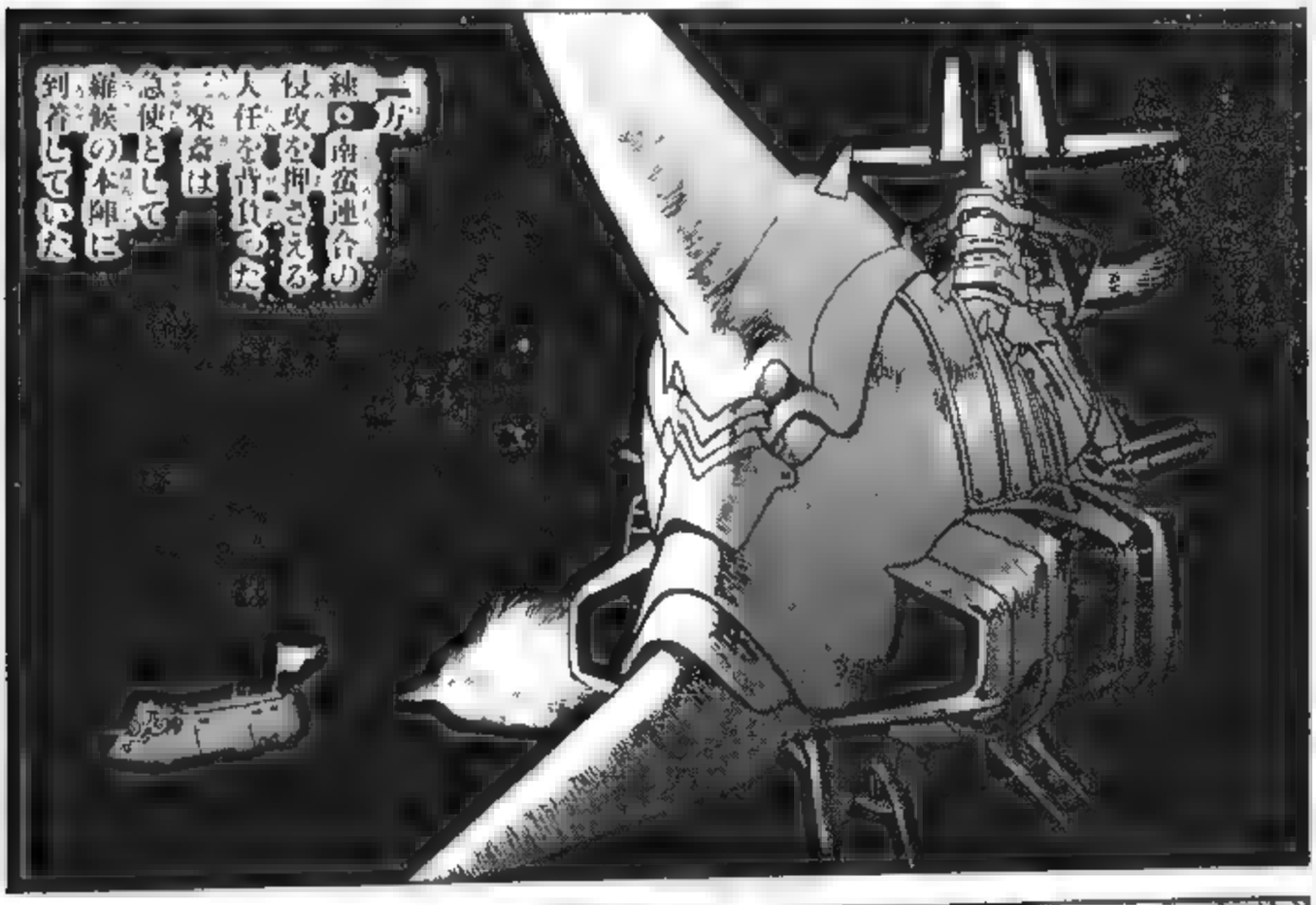
よろしいですか
将軍

それでは…

おうよ！

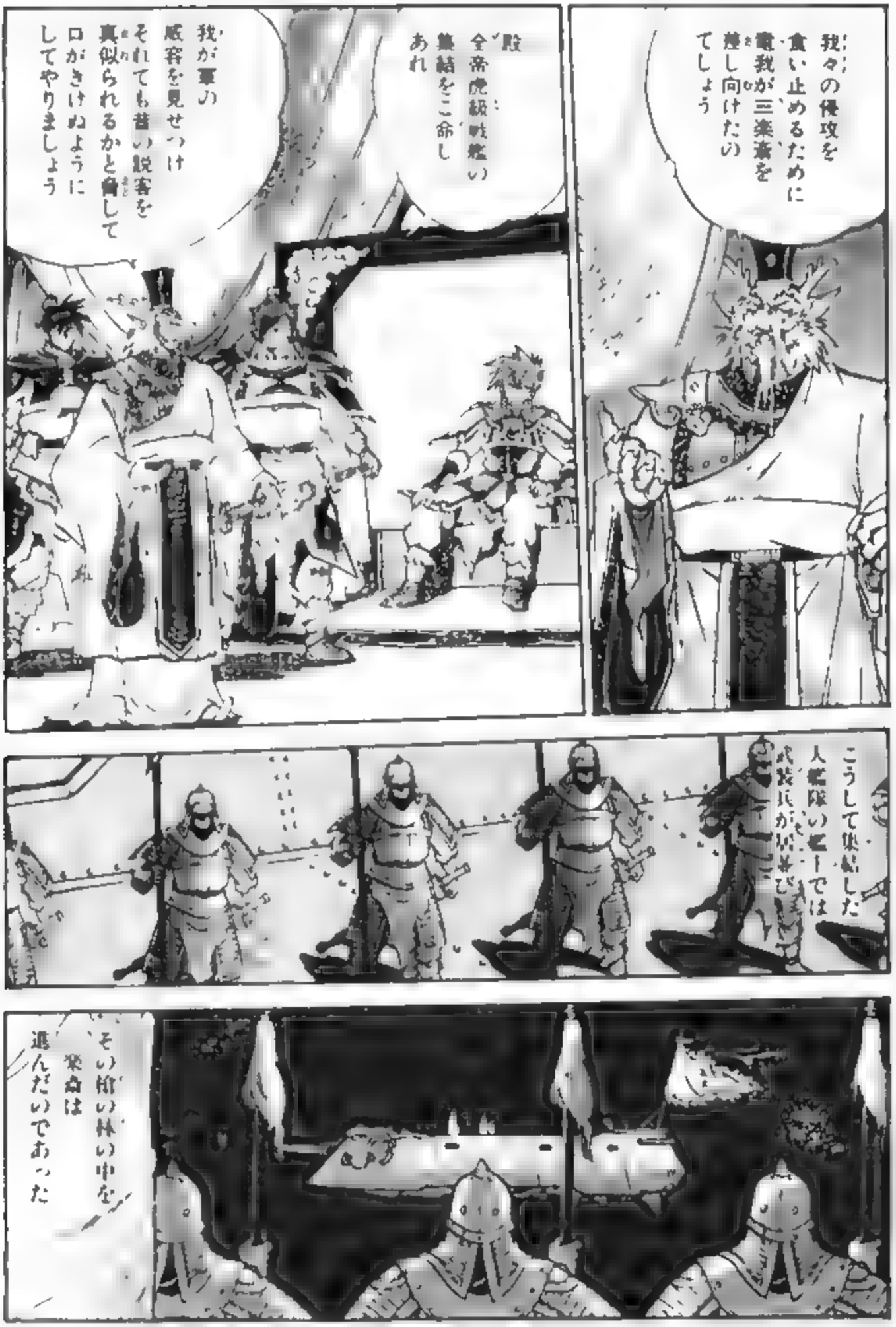
ビンポーン！
同じく
からめ手から
攻めますか…
軍師が
蜂起は役人肌の
小心者って
言ってたのを
思い出してよ
……て
いつ
やろうか
将軍
我々は常に
全銀河を視野に
入れておかなければ
なりません
西先の他の
二路
羅候と正宗の
攻略と連動して
動きましょう
羅候と
正宗？
ご安心を
三楽斎殿が
うまく
取り計らって
いますよ

それと
余計なことですが将軍
もう少し
字を練習した
方が…
うっせぇーっ!!


一方
南蛮連合の
侵攻を押さえる
大任を背負った
楽森は
急使として
維族の本陣に
到着していた

おおっ!!

その目に映ったのは
全宇宙を
押しつぶすための
にとく仙陣する
大艦隊と…！
その中で
城郭のように
そびえ立つ
十一隻の
巨艦だった…！
いやはや
何とも
見せつけて
くれますなぁ…


我々の侵攻を
食い止めるために
曹我が三楽斎を
差し向けたの
でしょう
殿
全帝虎級戦艦の
集結をご命じ
あれ
我が軍の
威容を見せつけ
それでも昔の説客を
真似られるかと脅して
口がきけぬように
してやりましょう
こうして集結した
大艦隊の数十では
武装兵が居並び
その狭い林の中を
楽斎は
通んだのであった

まことに
壮観な
眺めよのう
さ…土豪衆様
我々は
生きて帰れる
でしょうか？
ははは
我々を殺すなら
霜降の一杯で
十分！
兵糧なんか
持ち出して
とうする
やあ
やあ
黄の衆
ごくろーさん

ゴゴゴゴゴゴゴゴ
練・南蛮連合総旗艦
帝虎

これは
また
豪華な
造りだな
いたる所に
金細工が
施してある
まさに宮殿だ
金剛など
赤錆の浮いた
ただの鉄の塊にしか
見えんわい
まさに
自信満々…
この船に
傷をつける者など
銀河にはいないと
言わんばかりだ…

おまけに
し
ここまで
疑われると
悲しくなるわ

久しぶりだな
三楽斎！
変わりはないか？
うん？
ははーっ
羅候様に
おかれましては
ますますの
ご健勝の段
お喜び申し
上げます
練
練
…でどうだ
感想は？
はあ？
感想と
申しますと？
ウオッホン！
！

ああ
こちらの
軍勢で
ございますか
いやはや
一文者の徒である
それがしには
身に余る閲兵の儀で
ございました
まるで自分が
大提督にでも
なった気分てすな
閲兵だとおっ！
何を勘違い
している!!
はっ
そうでは
なかったので
ございますか
いや——
それがし
すっかりその気に
なっておりました
これは失礼の段
平にお許しを
相変わらず
人を食った
野郎だな
ならどうだ
五丈の軍勢に
くらべて

いやいや
くらべるなど
とんでもない
とてもおよび
ませぬ
ただ五丈では
国の力は
兵を御する人に
よって得られると
考えております
羅
貴様――っ!!
三楽斎!
貴様 和を請う
使者として
来たんだろうが!
それを身の程も
わきまえず
舌先三寸で
俺をからかいに
来たのか!!!
返答次第では
生かしては
返さんぞ!!

からかうなと
とんでも
ございませぬ
ただこの陣営の
威容さに
練がなぜ我々を
恐れているか
解せなかったので
ございます
お
恐れるだと!!
ならば
なぜこのような
児戯にも等しい
真似をなさいます

威圧するかのように
船が並び
武装兵が殺気を
みなぎらせて
立っております
一使者に強さを
誇示なさらなくても
練王の力は
皆が存しております

そうだな
まだ開戦した
わけでもない
使者に対して
無礼であった
兵を
退げさせろ

ゾロゾロ
配慮たりぬこと
許されよ
使者をこんな
吹きさらしの場に
留め置くわけには
いかん
中に入られよ
俺も鎧を脱いで
迎えよう
いえいえ
ご無礼つかまつったのは
それがしの方て
ございます
ふう
やれやれ…
これで
息ができると
いうもんだ…

では
改めて
用向きを
聞こうか？
この度
我が主君・竜王は
羅候様との
約束通り二月内で
偽帝を倒し
五丈に平和を
取りもどしました
竜王は羅候様の
情に感謝し
末永く誼を
通じたいとそれがしを
遣わしたので
ございます
これが
竜王よりの
親書で
ございます
ふん…
国境の確定に
相互不可侵か…
お題目だな…
おお
そうだ
三楽斎
以前会った時
次会う時は
やぎではなく
麒麟を
持参するとか
言ってたな

その"麒麟"…
見せてもらえるんだろうな
もちろん
ご献上いたします！
これへ！
何をして"麒麟"と言うのだ
我が軍を押し留める切り札はずだが…

こ、これは
首桶!?
お父君
羅鶴殿の
御首級て
ございます!
な……っ
ガタッ
何いっ!!?

ち……
父上の…
父上の
首だとお…
父上!!
大殿!!
く……く……!!

弾正公は
討ち取った将の首は
必ず塩漬けにして
年に一度
首改めを
なさって
おられました
そうして
自分の敵の
生死を確認して
いたそうで
あります
竜王は
まだ父君の
弔いをすませて
おられない
羅候様の
悲しみにいたく
同情なされ
それがしに
首級を届けるよう
命じられたのです
父上…
今まで父上の首を
奪い返せなかった
この羅候を
お許しくだされ…！

三楽斎…
はは
父の仇である狼刃を…
竜我が討ち取ったそうだな…！
ギ
き…金州海での戦いで…
あ…しかし狼刃殿は太陽に身を投げまして…その…
……
狼刃は竜我の恩師と聞いたが…
はっそれは事実でございます…

三成殿！
は
次すら
残らなくては
義我も
つらかったろうな

何ですと
兵を退かれる
と!?
撤退するわけては
ない!!
父上の葬儀を
益州都で
執り行うために
全軍俺の名をもって
一か月間喪に
服すのだ
しかしそれでは
西羌との
連携が滞って
しまいます!
西羌なぞ
放っておけ!
今は父を
弔うことが
先決だぞ!!
殿!
よくお考えください
竜我が大殿の
御首級を送って
きたのは
我が軍の動きを
押さえ込むため
ですぞ!
黙れ!!
竜我など
いつでも
討てる!!!
子として
父を弔うなと
申すのか!
俺を不孝者に
したいのか!!

殿の言われる
ことはごもっとも
だが…

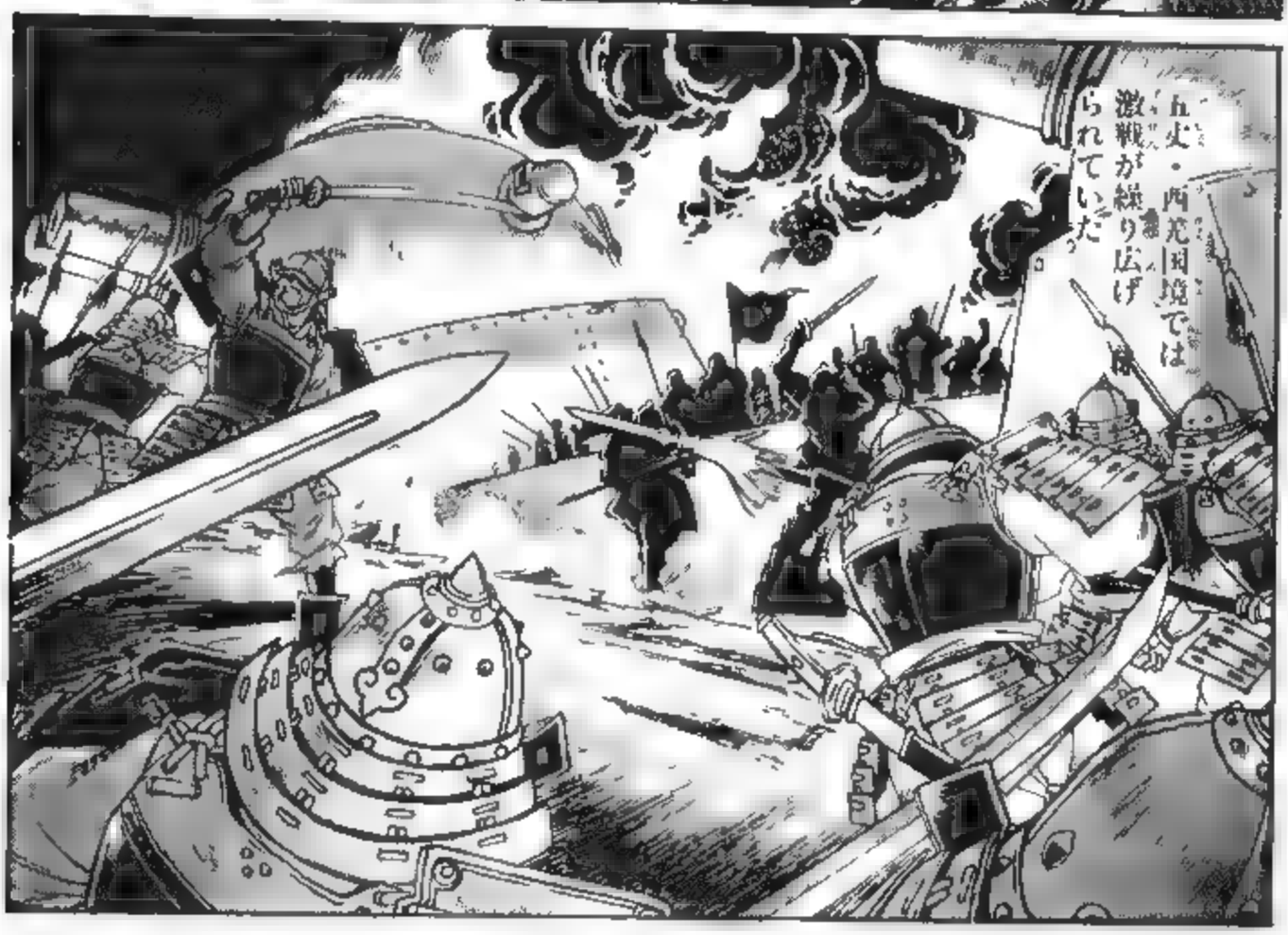
これでは
一路より
攻め入る策も
各個撃破
されてしまう…

五丈がどうしても
欲しい時を
与えてしまう…！

竜我の知恵袋
大覚屋師真…！

親子の情をも
利用するとは
見下げ果てた奴…!!

先王羅鶴の
葬儀のため
練の進撃が
停滞している間


五丈・西光国境では
激戦が繰り広げ
られていた

項武軍は
十倍以上の数の
西光軍を
ガッチリ食い止め
士気は上がり
それに対して
西光軍は
進まぬ進撃と
増加する死傷者に
だんだんと
厭戦気分が
広がっていった
行き詰まった
戦局を打開するため
秦宮邦は
項武に再
一騎打ちを挑むが
守りを固めた
項武軍より
つるべ打ちに遭い
自陣にもどるほか
なかった

秦宮括の旗艦 後退していきます！
よろしい 砲撃を停止せよ
将軍
ウヴヴ
トトト
一騎打ちに応じたい気持ちはわかりますが 将軍が秦宮括を斬り殺したのでは竜王様の大望を損なわれます
どうか我慢を…
わかってら！
…で どうなんだい？ 筋書き通り進んでるのかよ
練軍が兵を退いたことはすでに西発軍にも伝わっているでしょう そろそろ動きがありますよ
申しあげます

先程捕らえた
敵兵の中に
密書を携えた
者がおり
将軍にお会い
したいと申して
おります
!!
動きか
ありましたね
聞いたな
トンビンヤだせ
よし
そいつを
連れてこい
はっ!!
俺が項武だ!
用があると
言ったのは
おまえか
はい
総大将楽起様の
使いて参りました
この書簡をどうぞ
ん?
和睦を
結びたい
だと?

お返事をいただいて参れとの仰せでございます
将軍では私が…
おうっ
ではこれを楽起殿に渡してください
はは っ
おいっ小船を用意してこやつを敵陣に送り返してやれ！

うむ
でかしたぞ！
後で重き
恩賞を
取らせる
ははーっ！
竜我に
奏して
わしの西羌王の
地位を約束すると
言っておるわ
だが
そのためにも
危険人物である
秦宮括を
引き渡すようとな
筋書き通り
五丈の手で奴を
処分できます
どうすれば
よい？
それがしに
手配は
おまかせを
宴席の
仕度をせい

さあ
皆の者
今日は無礼講じゃ
どんどん
やってくれ！
わはは
やるなと
言っても
やりますぞ!!
どうした
宮括
おまえも
もっと
やらんか
叔父上
これは
いったい
何の宴席で
ござるか？

こんなことをしている場合ではござらぬ！
ふはは まだまだお主は若いのう
連戦で将も兵も疲れておろう
こういう大盤振舞も必要じゃろうが
これでまた士気が上がり明日からの合戦にも備えられるということじゃ
はあ…
これ何をしておる秀宮括にもっとつがんか！
西光一の酒豪に遠慮はいらんぞ〃
さあさあ若君
難しい顔をなさらずにやってください
ううむ…
グイッ

ふふふ
さすがの豪傑も薬には勝てぬか
何ですと!?
どうした宮括これくらいの酒で
いや何かめまいがして…
ふう——っ
うおっ!?
き 貴様ら!!

叔父上！
これは
いったい
何の
座興か!!!
ふはははは!!
バカ者が!!
貴様はこれから
五丈との講和の
宴席を
首だけになって
飾るのよ！
どうじゃ
光栄であろう?
こ…この
恥知らずの
売国奴が!!
地獄に
落ちるが
いいっ!!
くっくっくっ
その小うるさい
口もすぐに
開かなく
なるわい
何ということだ…!
父を殺され
身内に
陥れられるとは…
死んでも
死にきれん…!!

秦宮括を
確かに
お渡し
しましたぞ
これは
ご苦労で
ございました
宴席の
準備が
できています
どうぞ奥へ
わはは
今日は
うまい酒が
飲めると
いうことですな
!!

こ……これは……!!
何のつもりだ
わしは約束を
果たしたのだぞ!!
竜王様は
身内を売る
不義な人間は
好みません
悪しからず
将軍
終わりましたよ
お見事!

!?
ご無礼を
いたしました
秦起達は
捕らえてあります
ご自由に
お裁きになって
くだされ
何のつもりだ
これは!?
西羌の若君と
お話がしとう
ございました
さあ
上座に
お座り
くだされ
俺は
捕らわれの身
だぞ!
秦宮括様は
王侯
我らはただの
将でございます
王には王の
礼を尽くさねば
なりません

……
……で
話とは何だ
降伏して
詫びろとでも
言うのか!!
若君様
我らの本当の
敵は誰てしょう
我らの?
俺の敵は
ただ一人!
父の仇である
竜我だ!!
いえ
若君様は
お考え違いを
なさっています
何いっ!!
竜我が
父を殺したのは
まぎれもない
事実ではないか!
虚言で
言いくるめ
ようとしても
そうは
いかんぞ!!
竜王様は
自分の命を
狙った者を
斬ったに
すぎません

そもそも
永きに渡って
平穏だった
二国がなぜ
争わなくては
ならなかったか
どうして
父君が竜王様の
命を狙ったか
お考えください
ある男の
甘言が
あったからでは
ございませんか！
玄偉か…！
その通りです
あの男は
怪しげな術を
使い
時の権力者を
操り乱を
起こします
この度の
一連の争乱の
元凶で
ございます
若君様は
父君に玄偉を
近づけぬよう
再三諫言
なさったと
聞きます
うむ
まるで父は
取り憑かれた
かのように
玄偉の策に
乗ったのでな
恐らく
何かしらの
術を使ったので
ございましょう

今
銀河で
最強の国は
線でございます
弱者である
五丈と西光が
争っては
強者・線の
思う壺
でございましょう
絆
とうしろと
言うのだ
されば
若君様が
私怨を忘れ
五丈と調和を
結び
末永く友好を
保たれますよう
誰かに
心情を
察せられ
なかったのは
この俺が
しかも
まるで
ガキのように
竜王とは
とんな
お方だ？
立派な
お方で
こざいます
せひとも竜王様と
お会いし
その目で
お確かめくだされ
俺を
竜王に会わすと
言うのか

ふん！
父を殺した
男がどういう
人間なのか
見てみるのも
よかろう…！
もし
くだらん男なら
その場で
斬り殺して
くれる!!
いいだろう
よろしく
引き会わせて
くれ
おまかせ
ください

秦宮括様
これを
お返ししますぞ
ならば
お主の
首も
返そう

これで
互いの首が
もどった
わけだな
いや
若君様の
太刀さばきには
感服しましたわい

こうして項武軍と西光軍は轡を並べて斉王都に入場した
だが養宵揺は決して軍に服したわけではなかった
私怨を忘れようとはしたが捨てたわけではなかったのだ
どんな男だ竜我雷という男は…!!
俺の父をころしておくしてこの人間をおもいるという男は…!!

五丈
五丈
竜王陛下も
若君に早く
お会いしたいと
城門までお迎えに
まいったようで
ございます
!!
西羌

何ナ
こいつ
重みは…!!
あんな若僧が
大将の
持ち主なのか…!?
それは
自分に
人下な狙う
英傑にしか
感じられない
独特のもので
あった
発言揺り
全身に
冷汗が
流れた

五丈
五丈
お初に
お目にかかる
それがし
西羌王秦羅の子…
お主
我が五丈との
講和を受け
入れてくれる
だろうな
！
な…何と
無礼な
名乗りも
せずに
いきなり…

是か非か
問われた方が答えるべきだ
ギャキッ

お受けいたす……！

おおっ
そうか!!
そいつは
よかった!
さあ
立たれい!
宴席(えんせき)の
仕度は
できてるんだ

こうして
三人の王は
そろって
入場した
これでいい
おと秦宮括
どちらも王であるか
下いけしめは
つけなくては
ならん
同盟国で
あろうとも
対等では
銀河は治まらん・・
その夜
雷は配下の
文武百官を集め
秦宮括を客分に祀て
上座にすえ
大いに飲み論じた

若い秦宮括は
雷の器の大きさに
すっかり
感じ入ってしまった
万馬の軍勢をも
寄せつけない男を
一騎だけで
その足元に
平伏させるとはな…
雷…
いつの間にか
おまえは
恐ろしく大きな
男になったようだな…
俺とおまえ
どちらが
亀になるか
賭になるか
わかったよ…

私怨を捨てて
五丈と共存し
練に対抗するか…
小さなことに
こだわり
大をみすみす
失うは愚と
いうことか…
俺は
真の敵を
見失って
いた…
私情のため
国の大事を
誤るところであった
奉殿とは
部下ではなく
友として
付き合いたい
……

ゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴ

踏廟か
この艦内の騒きは何事てす まだ殿から出撃命令は届いてませんが！
俺の独断だ 十二時間後に国境を越える
そ それは越権行為になりますよ いくら姜子昌様とはいえ殿のお怒りを買ってしまいます
処分は覚悟の上だ！
五丈を叩くのは今だ機を失いたくないのだ
お言葉ですが将軍！
殿も申されたように我が軍は強大！五丈などいつても討てるではないですか
俺はそこまで五丈を甘く見ておらん

若き王の下
優秀な臣下が
着々と国家再建に
臨んでいる
放っておいては
手に負えない
超大国になってしまう
五丈
すでに
五丈と西羌が
和睦を結んだ
という情報も
ある
叩くのは
今しか
ないのだ
申し上げます!!
何だ!?

智の国で
叛乱が
起こりました!!
何いっ!!
智 第二の都市
九連をはじめ
京城 鎮海城が
一斉に蜂起し
周辺の諸都市にも
広がりつつあります!!

たとえ正宗の策動でなくともこの騒ぎに乗ずることは充分あり得る
我が軍は正宗に備えねばならん…
五丈討伐は夢と消えるか…
いや待て…
まさかこれも大覚尊朗真の策略か…!!
いや：この背後に正宗がいるとしたらそうもいかん…!
くう～～～っ!
この大事に何たること!!
直ちに一軍を派遣して鎮圧いたしましょう

なんぼ奴は
神楽殿〃
それがしの
〃先陣の志願
大都督に
取り継いで
いただけたか！
あ…
いえ
そのことは
ちょっと…

こうして紳重は
動くに動けない
状態となり
九死の危機は
一時的に回避された

だが大部督
姜子昌の頭に
人覚師真の名が
深く刻み込まれたのであった!

ふう…
ポロン
つまらんなー
な―んも
することも
あらへん
ポロン
ポロン
ポロン

何が限界だって？
雷!!
何てかっこーしてんだよ
えっえっせやかていきなりなんやもん!!
驚かしてやろうと思って取り継がないよう頼んでな
西羌のいい酒が手に入ったんだ飲もーぜ
!!

あらかじめ
ゆーといて
くれたら
いろいろ
用意したのにー
いいんだって
堅苦しいの
なしだぜ
秦宮括らと
連日宴会でな
騒々しいのも
飽きたしな
せやけど
ええん？
紫紋とこ
行かんで
うちんとこ
来て…
なーんだ
何だ
麗羅らしく
ねーぞ！
昔なら
「雷はうちの
もんや」って
放してくれん
かったじゃ
ねーか
へへへ
んなことも
あったなー
確かに
女房は
紫紋だけどさ
麗羅だって
俺にとっては
大事な女さ
雷…

よっしゃあ
飲も
飲も！
うちが
バンバン
ついだる〃
それてよー
師真の
バカがよー
キャハハハハハ〃
ちょ――っ
雷～～～～っ！
うちが紫紋と
競争しとるん
知っとるやろな
ああ
とっちが俺の子を先に
産むかってやつだろ

競争っちゅうたら
公平な条件で
やらなあかんのと
ちゃうか！
せやのに
雷はちーっとも
うちんとこ
来ーへんやんか！
たまに来た方が
きれいに
見えるだろ
ボカ
ボカ
ボカ
ごまかすな
――っ!!
今日は
帰さへんからな…

よおっ
はら
早く
開えっ
てこいよ
孫はすけさん
今日も
いい天気に
なりそうかせ
朝飯を
筑紫と一緒に
食おうせ
外で
食うか
うわも
なんや
おなか
ヘコヘコやー

外伝

やっほ！
やっほ！
休暇だーい
〃
そんなに
はしゃぐなよ
恥ずかしい
じゃねーか
だって
半年振りだよ
たまには
ガソリン補給
しとかなきゃ
まあ
人間扱い
されて
ねーよな
俺達
休暇ったって
三日だけだせ
とーすんだ
まあ
自隊落に
いこうぜ
軍規なんて
クソくらえだ

とりあえず
酒と飯！
女と柔らけえ
ヘノトがな
博打ってのも
あるけとな
博打って
元がねえしや
ねーか
なーに
こいつ等縛い
特製お守りを
新兵に売りつけりや
ハンチンよ！
へっとんでもねえ
ナマグサ坊主たな
お前って
世の中
こんなもんだ
よお
皆！
おっと！
貰取り屋の
ご登場か
何だ
みんな
てき上がって
んな
こいつ
手紙は俺の
適切な援護の
おかげだぞ
おこれ
よな！

なーにが援護だ！一発俺の頭かすめていったぞ
ははっそーだったか悪い！悪い！
だからこいつに歩兵砲を任すなって言っただろ
兄きーっ
おうっ！
今度はお前が俺の前に立てよ
ははっご苦労さん
骸羅将軍の軍が呂良関を包囲して艦砲射撃を浴びせてるんだって
これで夏巾の反乱は終わりだな
3か月もよくもったせまあ後ろに南天軍がついてるとはいえよ
夏巾の国王包元公は降伏を拒否したってよ」
意地張ってねえでさっさと手を上げりゃいいのによ
ねえーっそういう話は今無しにしようよ！
わかったわかった
賛成！

スピ～～～
ほら見ろ
太助のやつ
先のこと考えずに
飲みまくってよ！
ゴク
まあ
いつもの
ことだ
慣るな
三日間
酔い潰し
とくのも手だな
どーせ何も
できねーし
俺に世話
かけんなよ
はーい
そこの赤い
おヒゲの人
遊んでって
よーっ！
おうっ
いくらだ？
これ
ボッキリ
そーか！

と言うことで
俺は単独行動を
とる
武運を祈って
おるぞ
ああっ
汚ねーっ
雲海!!
てめーこの
破戒ポーズ
こらっ太助
しっかり
しろよ!
ちくしょう!!
まだ宿もとって
ねえのに~!
う~い
お武家様
女が
いりようで
ま まあ
そーなんだけど
相棒が
これでね
ばーさん
売春宿の
かみさんかい?
ご安心なされ
そちらの方は
うちで面倒
みましょう
ささっ
こちらへ

いかがで？
いかがってばーさん
どー見たってまだガキじゃねえか！人をバカにすんじゃねえよ！
いえいえ見かけは幼いですが立派な女子
必ずやご満足いただけます
ささっどうぞ奥の部屋を用意しとりますから…
しょうがねえな
買うよ
前金だったな
ジャラッ

万事うまくいきましたな 羅王様
よろしい よくやった
あのチビは お前に任す 騒がれるな
ふふっ
抱かないの？
ハーカ お前みたいな ガキ相手に そんなことできっかよ
第一いくつなんだお前？
でも あなたは あたしを 買いました

そうしなきゃ
お前の儲けに
ならねえだろ
買ったからって
抱くとは
限らねえや
それじゃ
あたし
困ります
とーして？
抱いても
抱かなくても
金は一緒だろ
服着て
こっちこいよ
話でもしようぜ
あたしを
哀れんで
るのね
あなたが
どういう了見でも
あたしを買った
ことには
かわりないわ
あなたは
あたしの体に
お金を払ったのよ
そんな男に
同情する
資格はないわ
な!!

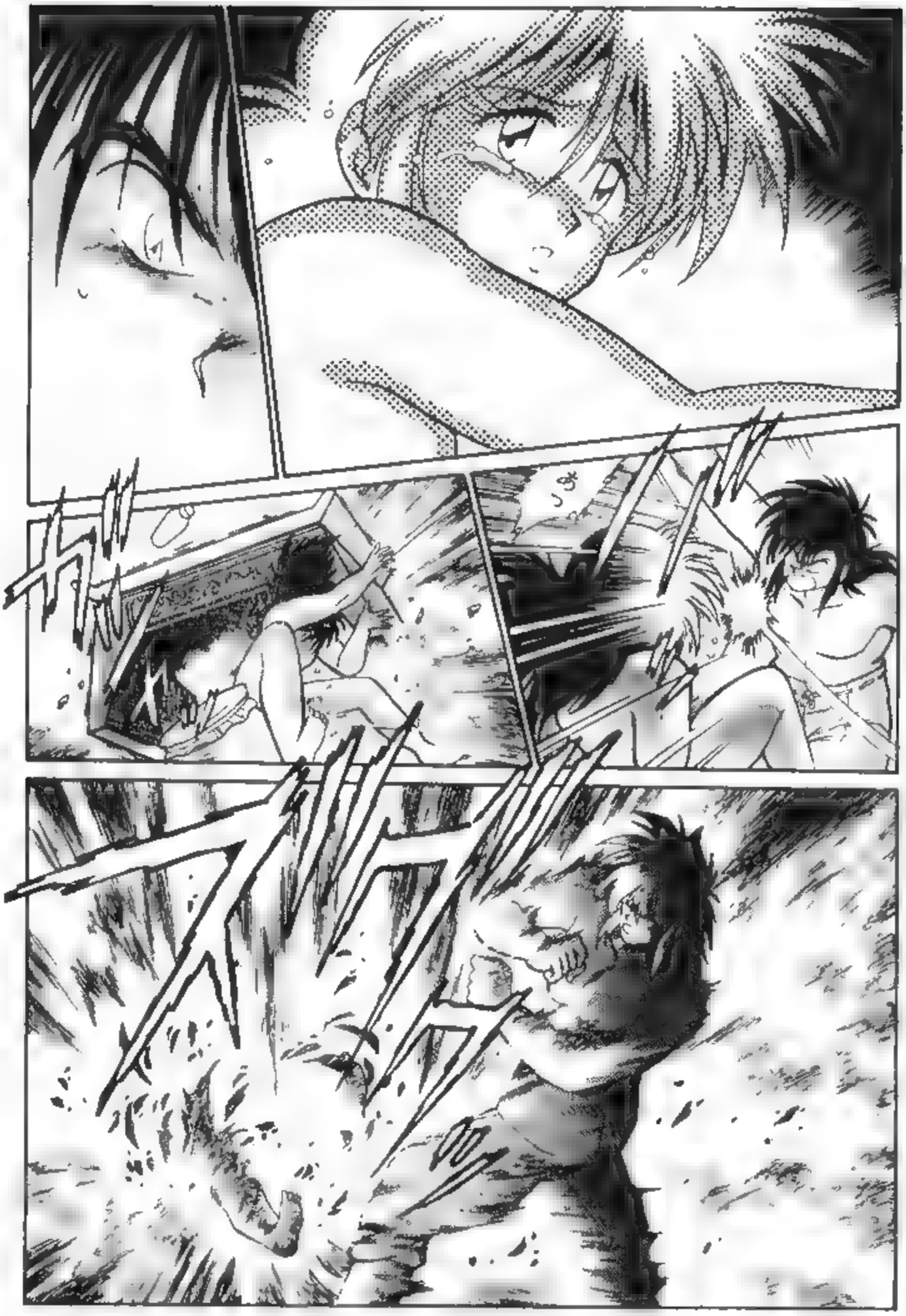
ガキんちょのくせに口の減らねえ女だな！
よーしじゃあ金払った分楽しませてもらうぞ！
三日間貸し切りってことにするぜ
!!
何だよ襲えてるのか？
男に抱かれんの初めてなんじゃねーだろうな？
ワリ!!

ん"
!!

配備完了です
よし
五丈のやつらもう勝ったと思ってやがるな
自分達の帰る船がなくなろうとは思うまいて

もう
泣くなよ
ったく
初めてなら
初めてって
言えよな
売られたか
さらわれたか
知らねーけど
もちっと自分を
大切にしろよ
あ…
あの
あたし
もういいよ
慰えちゃったよ
けどまた
何で
あそこまで
突っ張って
見せたんだ
いかにも
って感じ
だったぞ
それとも
俺に
抱かれなきゃ
ならん理由が
あったんじゃ
ねーのか?
お前の
筋肉の動き
目の表情
その年の女とは
思えねえんだ
よな
何者だ!

それは
うわっ!!
ビリビリ
!!
姉様!!
ご武運を



ば…爆弾？
人間爆弾か!!
ちくしょうコマンドだ!!
コマンドがよく使う手だ

ドガ
ガ
な……何だ!?

ちくしょう
何だ!?
敵襲か!?
クソッたれ
太助!!
おい太助!!
起きろって
太助!!
う〜ん
だめだよ
もう飲めね〜〜
ったく
雲海のやつは
どーしてんだ
敵襲だーっ
夏巾の
コマンドだーっ!!
女の中に
粉れ込んで
るぞーっ!!

おい!!
ちくしょう!!
どわー!!
雲海!!
女が
女が爆発
しちまった!
敵襲
だって!!
こんな
後方地をか?
ここには燃料も
弾薬もねえぞ
わからん
だがここまで
派手にやると
なると

陽動作戦か？
なら本命は？
まさかとは
思うが……
ミミーーーッ…
何だ
町の方が
うるせえぞ
お祭り騒ぎだろ
さっき憲兵が
大勢向かったぜ
ぶっ

急げ!! 出るぞ
待て!!
ドガッ
!!
へへ やっぱりな てめえらの目的は上にいる戦艦か
破壊工作か 乗っ取りかは知らねえがもうお終いだぜ
きさまはおばばの 赤毛猿!!
ホント、こわっぱ一人で電脳一族を相手にする気かい?
やれい!!

!!
雷!!

ヒュ!!
ここっ…
くっ
キ!!

逃げられねえぞ観念しな〃
我が魔風一族に降伏はない〃勝利か死か二つに一つだ
そーだろうよ俺もてめえらを生かしちゃおけねえ
あんな小さな娘に惨いことしやがって〃
許さねえぞ!!

一人一殺が
我々
コマンドの
鉄則!!
しまった
!!
敵を倒す力が
ない者が
その身を呈する
のは当然
!!
我が妹でも
例外では
ない
!!

!!
ふぁんだ
とお〜
ぐわっ
てめえ
鬼か蛇か!!
よくも自分の
妹にあんな
ことできたな
てめえの命令を
あいつは必死で
守ろうとしたんだぞ!

黙れ!!
女だろうが
子供だろうが
コマンドとして
生まれたからには
その務めを
果すのだ!
下らねえ!!

ブロッ
シュワ

雷!!
生きてっか!?
ああ
消火を!!
手が
つけられねえよ
燃やすに任すしか
ねえ!

なあ雲海
お前……
一応坊主だろ？
お経の一つでもあげてくれよ
へ？
まあいいけどな
誰にだ？
決まってるだろ
ああ……
仲間も随分やられちまったからな
このナマグサので
成仏してくれりゃいいが……
あの娘にもな……

あの日あの時
お互いの強さを
認め合いながら
再び出会うことの
なかった若武者二人…
正宗も
竜我も
討ち取って
くれるわ!!
この
羅候様がな!!
この日を
どれほど
夢見た
ことかっ!!
ようやく
俺の前に
現れたな!!
この時を
ずっとな…!
今
南北銀河の雄となり
相見えることになる!

だがそれは
全銀河始まって
以来の大戦争の
前触れに
すぎなかった…!!!
勝負(しょうぶ)!!
この野望に向かって
突き進む両雄!
全銀河に再び
鋼鉄の嵐が
吹き荒れるのか…!!
迫真の十四巻を
待て!!

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑬

1996年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101　東京都千代田区神田駿河台1-8　東京YWCA会館　電話03-5281-5213(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101　東京都千代田区神田駿河台2-9　電話03-5280-7550(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1996

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'95年10月号－'96年1月号(メディアワークス刊)
月刊コミックコンプ'90年増刊夏の号(角川書店刊)

ISBN4-07-304450-8 C0979